



ポツポおひさま発電所だより

今年も元気いっぱい、餅つき大会を開催

2006年2月に発電を開始し、11年目を迎えます。発電量は顕著な経年劣化も見られず順調に推移しています。今年(2016年)も恒例の餅つき大会が12月23日(金祝)、ポツポ第2保育園で開催されました。企画部会より5名が参加しました。

自然エネルギーの会のコーナーは、「ぜんざい」がメインなので前日からの雨が心配されましたが、朝から好天でひと安心。寒いこともあってか、つきたての餅を入れた甘い「ぜんざい」が順調に売れました。準備した100名分を完売です。

また、風のお陰でお馴染みのプラ風車と手編み風車がクルクルよく回りました。園児や小学生の皆さんの目を引いたとみえ、例年になく風車もたくさん、子どもたちの手に渡りました。



手編み風車

古畑 ひとし 等 (企画部員)

第45回公害環境デー

～公害・原発をなくし、地球環境を守る。環境の保全・再生をめざす府民集会～

2月4日(土)、エルおおさか南館において開催されました。主催は、第45回公害環境デー実行委員会。

午前中は3つの分科会が開催されました。

- 第1 「異常気象がまねく想定外の災害に備えて」
- 第2 「パリ協定発効と日本の課題」
- 第3 「TPPと環境・暮らし」

第2分科会「パリ協定発効と日本の課題」では、PARE 事務局長・CASA 専務理事の早川光俊より「COP22 報告-その成果と課題」、気候ネットワーク



全体会のようす

の山本元さんより「世界に逆行、石炭火力に突き進む日本」、PARE 事務局次長の中村庄和が「市民がすすめる再エネ普及」について報告しました。参加者からは「パリ協定が画期的なこと、それに対し日本が後ろ向きなこと、原発を何とか延命させようとする執拗な活動があることが分かりました。」などの感想が寄せられました。

午後の全大会では、金谷実行委員長より基調講演「福島原発事故の現状と課題」、井戸弁護士より「原発再稼働差し止め訴訟」、白倉弁護士より「福島原発事故を原因とする損害賠償訴訟の現状と展望」について、また原発賠償関西訴訟原告代表の森松明希子さんより「原発賠償関西訴訟原告団の訴え」がありました。続いて各課題・運動分野では「ミナマタ原告団の訴え」「アスベスト対策のたたかい」などの報告がありました。

最後に第45回公害環境デーは「府民へのアピール」を採択し閉会しました。200名の参加でした。

中村 庄和(事務局)